

1. 中学校期における学力課題を改善する一歩として

令和4年9月7日(水)、南風原小学校を訪問し、算数科の授業を参観する機会をいただきました。この訪問は、7月4日(月)に開催された島尻地区小中連携合同研究会(算/数)のワークショップにおいて、松茂良先生(南風原小)、當山先生(北丘小)、山田・新垣(南風原中)と、年度内にお互いの授業を参観し、『小中9年間の学びの接続を踏まえた授業改善にチャレンジしよう』と盛り上がったことがきっかけです。

また、訪問前日の9月6日(火)は、松茂良先生が中学校に訪れ、数学科の授業を参観しました。

教科を通した小中連携の充実が、令和4年度P P IIの重点事項である「中学校期の学力課題」の改善の一つになることを信じて、その一歩を踏み出します。



2. 算数科の授業 第5学年「図形の角」

授業者は5年担任の松茂良先生です(单元名：図形の角)。授業の見どころは、算数・数学の学習過程のイメージ(図1)の右側を、授業者の働きかけにより児童自身がまわしていく姿だと思えます。具体的には、①三角形の内角の和は何度?(数学の事象)、②正方形と長方形の内角の和は何度?(数学的に表現した問題)、③分度器を使ったり、角を寄せ集めたりしないで、四角形の内角の和の求め方は?(焦点化した問題)、④四角形の内角を求めるときは、三角形の内角の和をもとにして考えると 360° になる(結果)、⑤対角線を2本

引くと四角形が4つできるので $180^\circ \times 4 = 720^\circ$ 、 360° にならないのはなぜ?(統合・発展・体系化)という学習過程です(図1)。

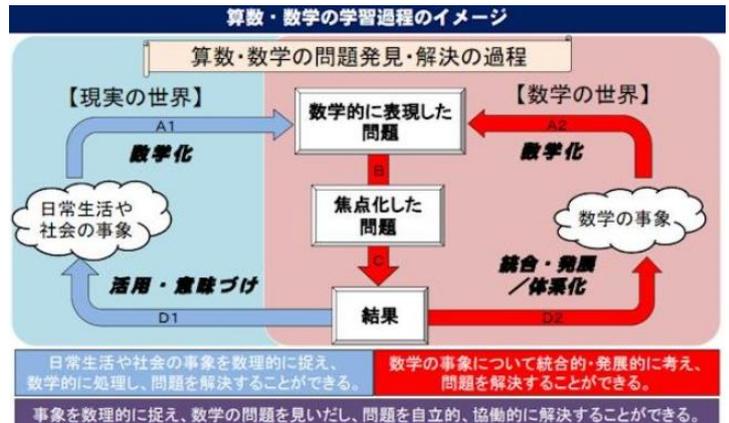


図1 学習指導要領解説数学編 P.23

児童は四角形の中に三角形を作ったり、式を立てたりする活動を通して、「三角形が2個できたから・・・」、「三角形1個で 180° だから・・・」と演繹的に推論し、図形と式を関連付けて試行錯誤している様子でした。また、松茂良先生がペアで伝え合う活動を設定することで、すべての児童が考えたことを Output(記述・発言)し、協働的に学習する姿も印象的でした(図2)。

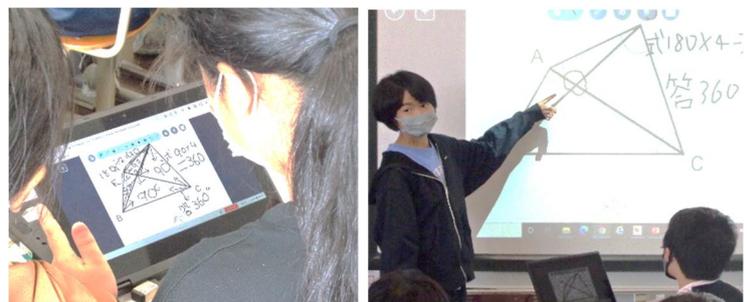


図2 ロイロノートを使って考え合う。

3. 授業を参観させていただきありがとうございました。

松茂良先生、おつかれさまでした。小学校算数科の授業を参観する機会は大変貴重で、とても勉強になりました。引き続き「授業改善を通した小中連携」を共に充実させていきましょう。よろしくお願ひします。

児童の思考の流れを想定した構造的な板書計画